

《卒業研究報告》

子ども時代の特別なイベント参加経験と他者との関わり

町田 紫乃 (元治ゼミ)

第1章 はじめに

近年、子どもの放課後は多様化している。朝日新聞によると、美作市では新たに無料で夜まで利用できる、「子ども第三の居場所」が2ヶ所でき、家庭で様々な問題を抱える子どもを支えることを目的とした施設としている。スタッフ2～3人が学習支援、生活習慣、コミュニケーション、心の支援、食事提供を行なっている（『朝日新聞』2022年6月27日付朝刊）。また、朝日新聞によると埼玉県さいたま市見沼区では「第三の居場所」として子どもや若者の支援活動をするNPO法人「さいたまユースサポートネット」が、経済的に生活が苦しい家庭などに育つ子どもたちが放課後に集まる「あそぼっくす みぬま」を開所（『朝日新聞』2022年1月9日付朝刊）、佐賀県では発達障害やメンタル不調がある中高生を支援する放課後デイサービス「ユニスタさが」を開所（『朝日新聞』2022年3月30日付朝刊）、といったように日本各地で子どもの放課後の「居場所」がつかられている。

子どもが放課後に通う民間の学童保育でもサービスが変化している。朝日新聞によると、「英会話教室や塾などを運営する企業が開く民間の学童保育が次々と登場し、一部の学童が「習い事」化しつつある」とし、その背景には「放課後の時間を「有効活用」させたいという親の思いがある」としている（『朝日新聞』2022年5月21日付朝刊）。

日本各地でできている放課後の居場所も利用料無料のところから、金銭が発生するサービスもあ

る。多様化している放課後の中で、子どもたちはどのように過ごしているのだろうか。

第2章 先行研究の検討と研究の目的

現代の資本主義社会は子どもの放課後にも影響を及ぼしている。大澤真平によると、資本主義社会において、生活に必要なほとんどの財とサービスが市場化されており、子どもの能力を身につける機会や環境を手に入れるには、財やサービスが必要としている（大澤 2008 : 341）。また、山下智也は、「現代の子どもの放課後の姿については、意外と知る術を持たない」（山下 2019 : 222）と述べている。このことから、子どもの放課後や、家庭状況について難しい質問などを使わずに知る方法が必要であると考えられる。

大澤真平は、クリスマスや誕生日といった子どもにとって特別な日の経験は社会的に広く一般化した行事であり、他者との比較を意識せざるを得ない出来事である（大澤 2019 : 62）と述べているため、特別なイベント事は他者との比較に用いることができる。イベントは家族だけでなく、友人や親族、習い事などの所属しているところでも行うことができる。このことから、イベント事から家や学校といった身近な場所以外での他者との関わりや、子どもの様子を推測することが可能なのではないかと考えた。

以上のことから、クリスマスや誕生日といった特別なイベントごときから、子どもの家や学校といった身近な場所以外での他者との関わりとつな

表 1-1. 仮説 1 小学生の頃のフィッシャーの正確検定の結果

小学生の頃不登校 経験なし	自信の有無	信頼されて いた経験	保護者と話 す頻度	授業理解度
	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)
誕生日プレゼント	0.075	0.005	0.057	1.000
クリスマス会	0.002	0.009	0.001	0.076
バレンタインデー	0.027	0.004	0.325	1.000
ホワイトデー	0.102	0.044	0.299	0.561
小学生の頃不登校 経験あり	自信の有無	信頼されて いた経験	保護者と話 す頻度	授業理解度
	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)
誕生日プレゼント	0.064	0.058	0.657	0.507
クリスマス会	0.089	0.611	0.219	0.543
バレンタインデー	0.764	0.029	1.000	0.040
ホワイトデー	0.109	0.215	0.657	* 1

* 1 は度数 0 が 1 セル存在する

表 1-2. 仮説 1 中学生の頃のフィッシャーの正確検定の結果

中学生の頃不登校 経験なし	自信の有無	信頼されて いた経験	保護者と話 す頻度	授業理解度
	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)
誕生日プレゼント	0.510	0.204	0.437	0.665
クリスマス会	1.000	0.207	0.066	0.608
バレンタインデー	0.813	0.169	0.266	0.817
ホワイトデー	1.000	0.084	0.554	1.000
中学生の頃不登校 経験あり	自信の有無	信頼されて いた経験	保護者と話 す頻度	授業理解度
	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)	正確な有意 確率 (両側)
誕生日プレゼント	0.500	0.005	0.132	0.346
クリスマス会	0.015	0.000	0.464	0.827
バレンタインデー	0.462	0.002	0.166	0.104
ホワイトデー	0.051	0.004	0.355	0.307

がり、そして、子どもの様子とどのような関係性
を持っているのか明らかにしていきたい。

験が異なる。

○仮説 2

家や学校といった身近な場所以外での他者との
関わりがあるかどうかによって、子どもの様子が
異なる

第 3 章 仮説の検証

第 1 節 仮説の設定

先の調査テーマについて以下のように仮説を設
定した。

○仮説 1

日常的に家や学校といった身近な場所以外での
他者との関わりを持っているかによって、家族内、
親戚内、学校内以外で行われるイベントの参加経

第 2 節 調査方法

2022年 7 月 19 日に不登校クラスのある通信制全
日制高校の 1 年生から 3 年生に「子ども時代の特
別なイベント参加経験と他者との関わり」に関す
るアンケート調査を実施した。そのうち男性が

152人、女性が79人、その他が11人、未回答が2人の計244人から回答を得た。

アンケートの質問内容は家や学校外でのイベント事の参加経験と、日常的に家や学校といった身近な場所以外での他者との関わりの様子を知らためへの質問、当時の経験や様子を聞く質問を、小学生の頃と中学生の頃それぞれ回答してもらった。

第3節 仮説1、仮説2の検証

仮説1を検証するにあたり、下記の変数を使用して小学生の頃、中学生の頃の経験をそれぞれカイ二乗検定、フィッシャーの正確検定をおこない、フィッシャーの正確検定の結果を表1-1、1-2にまとめた。

- ・日常的に家や学校といった身近な場所以外での他者との関わりに「習い事」「学校外友人」「(家、学校以外で)居場所」「(家族、親戚、学校以外で)相談できる人」「(家族、親戚、学校以外で)信頼できる人」
- ・家族内、親戚内、学校内以外で行われるイベントの参加経験に「(家族、親戚、学校以外)誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験」「(家、学校以外)ハロウィンパーティーに参加した経験」「(家、学校以外)クリスマス会に参加した経験」「(家族、親戚、学校以外)バレンタインデープレゼントを渡したりもらったりした経験」「(家族、親戚、学校以外)ホワイトデープレゼントを渡したりもらったりした経験」

- ・第三変数に「不登校経験の有無」

その結果、下記の5つの作業仮説にて小学生の頃・中学生の頃に関係なく、また不登校の経験に関係なく P の値が0.05未満であり、変数間で何らかの関係があることが分かった。

- ・作業仮説1-1

学校外の友人がいるかによって、(家・学校以外で)クリスマス会に参加した経験の有無が異なる。

- ・作業仮説1-2

(家・学校以外で)安心して過ごせる居場所があるかによって、(家族・親戚・学校以外で)バレンタインデーでプレゼントを渡したりもらったりした経験の有無が異なる。

- ・作業仮説1-3

(家・学校以外で)安心して過ごせる居場所があるかによって、(家族・親戚・学校以外で)ホワイトデーでプレゼントを渡したりもらったりした経験の有無が異なる。

- ・作業仮説1-4

(家族・親戚・学校以外で)相談できる人がいるかどうかによって、(家族・親戚・学校以外で)誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験の有無が異なる。

- ・作業仮説1-5

(家族・親戚・学校以外で)信頼できる人がいるかどうかによって、(家族・親戚・学校以外で)誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験の有無が異なる。

次に仮説1の分析で家や学校といった身近な場所以外での「誕生日」「クリスマス会」「バレンタインデー」「ホワイトデー」イベントに参加したことのある人と参加したことのない人との違いを見るために、仮説2を検討する。「家や学校といった身近な場所以外での他者との関わりがあるかどうか」を見るために、仮説1の分析で関係の見られた「誕生日」「クリスマス会」「バレンタインデー」

表2-1. 仮説2小学生の頃のフィッシャーの正確検定結果

小学生の頃 不登校経験 なし	誕生日プレ ゼント	ハロウィン パーティー	クリスマス 会	バレンタイ ンデー	ホワイト デー
	正確な有意 確率 (両側)				
学校外友人	0.001	0.014	0.001	0.007	0.000
居場所	0.000	0.088	0.002	0.001	0.003
相談できる人	0.000	1.000	0.403	0.000	0.000
信頼できる人	0.000	0.195	0.679	0.000	0.000
習い事	0.205	0.060	0.024	0.001	0.009
小学生の頃 不登校経験 あり	誕生日プレ ゼント	ハロウィン パーティー	クリスマス 会	バレンタイ ンデー	ホワイト デー
	正確な有意 確率 (両側)				
学校外友人	0.131	0.003	0.634	0.144	0.611
居場所	0.029	0.019	0.004	0.007	0.001
相談できる人	0.011	0.183	0.123	0.083	0.149
信頼できる人	0.000	0.131	0.151	0.055	0.018
習い事	0.815	0.761	1.000	0.411	0.897

表2-2. 仮説2中学生の頃のフィッシャーの正確検定結果

中学生の頃 不登校経験 なし	誕生日プレ ゼント	ハロウィン パーティー	クリスマス 会	バレンタイ ンデー	ホワイト デー
	正確な有意 確率 (両側)				
学校外友人	0.002	0.074	0.001	0.174	0.064
居場所	0.011	0.126	0.001	0.040	0.048
相談できる人	0.000	0.113	0.013	0.000	0.000
信頼できる人	0.000	0.016	0.002	0.000	0.004
習い事	0.016	0.481	0.421	0.168	0.209
中学生の頃 不登校経験 あり	誕生日プレ ゼント	ハロウィン パーティー	クリスマス 会	バレンタイ ンデー	ホワイト デー
	正確な有意 確率 (両側)				
学校外友人	0.003	0.000	0.000	0.002	0.003
居場所	0.190	0.094	0.131	0.005	0.047
相談できる人	0.024	0.151	0.079	0.014	0.014
信頼できる人	0.001	0.158	0.197	0.024	0.073
習い事	0.220	0.068	0.176	0.123	0.157

「ホワイトデー」の4つの変数を使用する。

仮説2を調査検証するにあたり、下記の変数を使用して小学生の頃、中学生の頃の経験をそれぞれカイ二乗検定、フィッシャーの正確検定をおこない、フィッシャーの正確検定の結果を表2-1、2-2にまとめた。

・家や学校といった身近な場所以外での他者との関わりがあるかどうか「(家族、親戚、学校以外) 誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験」「(家、学校以外) クリスマス会に参加した経験」「(家族、親戚、学校以外) バレン

タインデープレゼントを渡したりもらったりした経験」「(家族・親戚・学校以外) ホワイトデープレゼントを渡したりもらったりした経験」

- ・子どもの様子に「自信の有無」「信頼されていた経験」「保護者と話す頻度」「授業理解度」

- ・第三変数に「不登校経験の有無」

その結果、「小学生の頃」では、不登校の経験「あり」「なし」のどちらか、もしくは両方に P の値が0.05未満であり、変数間で何らかの関係があることが分かった作業仮説が8つ、「中学生の頃」では、不登校の経験「あり」で P の値が0.05未満であり、変数間で何らかの関係があることが分かった作業仮説が5つあることが分かった。

- ・作業仮説 2-1

小学生の頃・中学生の頃（家族・親戚・学校以外）誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験の有無によって、信頼されていた経験の有無が異なる。

- ・作業仮説 2-2

小学生の頃・中学生の頃（家・学校以外）でクリスマス会に参加した経験の有無によって、自分に自信を持っていたかどうか異なる。

- ・作業仮説 2-3

小学生の頃・中学生の頃（家・学校以外）でクリスマス会に参加した経験の有無によって、信頼されていた経験の有無が異なる。

- ・作業仮説 2-4

小学生の頃・中学生の頃（家族・親戚・学校以外）でバレンタインデーでプレゼントを渡したりもらったりした経験の有無によって、信頼されていた経験の有無が異なる。

- ・作業仮説 2-5

小学生の頃・中学生の頃（家族・親戚・学校以外）でホワイトデーでプレゼントを渡したりもらったりした経験の有無によって、信頼されていた経験の有無が異なる。

- ・作業仮説 2-6

小学生の頃（家・学校以外）でクリスマス会に参加した経験の有無によって、保護者と話す頻度が異なる。

- ・作業仮説 2-7

小学生の頃（家族・親戚・学校以外）でバレンタインデーでプレゼントを渡したりもらったりした経験の有無によって、自分に自信を持っていたかどうか異なる。

- ・作業仮説 2-8

小学生の頃（家族・親戚・学校以外）でバレンタインデーでプレゼントを渡したりもらったりした経験の有無によって、授業の理解度が異なる。

第4章 仮説1、2の結果のまとめと考察

仮説1の5つの作業仮説と、仮説2の8つの作業仮説にフィッシャーの正確検定、残差検定を行った。その結果、15の事実を考えることができた。イベントごとに結果を述べていく。

まず「クリスマス会」イベントについてまとめる。「クリスマス会」イベントには下記5つの事実があることが明らかになった。

1.小学生の頃、学校外の友人がいる人は、家、学校以外のクリスマス会に参加した経験を持っている人が多い。中でも小学生頃に家、学校以外のクリスマス会に参加した経験のある人は、小学生の頃、人に信頼されていたと感じる何らかの経験を持っている人が多い。

2. 中学生の頃、学校外の友人がいる人は、家、学校以外のクリスマス会に参加した経験を持っている人が多い。中でも「中学生不登校経験あり」の人で、中学生の頃に家、学校以外のクリスマス会に参加した経験のある人は、中学生の頃に人に信頼されていたと感じる何らかの経験を持っている人が多い。
 3. 小学生の頃、学校外の友人がいる人は、家、学校以外のクリスマス会に参加した経験を持っている人が多い。中でも「小学生不登校経験なし」の人で、小学生の頃に家、学校以外のクリスマス会に参加した経験のある人は、小学生の頃自分に自信を持っていた人が多い。
 4. 中学生の頃、学校外の友人がいる人は、家、学校以外のクリスマス会に参加した経験を持っている人が多い。中でも「中学生不登校経験あり」の人で、中学生の頃に家、学校以外のクリスマス会に参加した経験のある人は、中学生の頃自分に自信を持っていた人が多い。
 5. 小学生の頃、学校外の友人がいる人は、家、学校以外のクリスマス会に参加した経験を持っている人が多い。中でも「小学生不登校経験なし」の人で、小学生の頃に家、学校以外のクリスマス会に参加した経験のある人は、小学生の頃保護者と話す機会が多い。
- 次に「バレンタインデー」イベントについてまとめる。「バレンタインデー」イベントには下記4つの事実が明らかになった。
6. 小学生の頃、家、学校以外で安心して過ごせる居場所がある人は、バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験を持っている人が多い。中でも小学生の頃バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、小学生の頃人に信頼されていたと感じる何らかの経験を持っている人が多い。
 7. 中学生の頃、家、学校以外で安心して過ごせる居場所がある人は、バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験を持っている人が多い。中でも「中学生不登校経験あり」の人で、バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、中学生の頃人に信頼されていたと感じる何らかの経験を持っている人が多い。
 8. 小学生の頃、家、学校以外で安心して過ごせる居場所がある人は、バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験を持っている人が多い。中でも「小学生不登校経験なし」の人で、バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、小学生の頃自分に自信を持っていた人が多い。
 9. 小学生の頃、家、学校以外で安心して過ごせる居場所がある人は、バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)の人以外にプレゼントを渡したりもらったりした経験を持っている人が多い。中でも「小学生不登校経験あり」の人で、バレンタインデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、

小学生の頃学校の授業が理解できた人が多い。

次に「ホワイトデー」イベントについてまとめる。「ホワイトデー」イベントには下記2つの事実が明らかになった。

10.小学生の頃、家、学校以外で安心して過ごせる居場所がある人は、ホワイトデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験を持っている人が多い。中でも「小学生不登校経験なし」の人で、ホワイトデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)の人以外にプレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、人から信頼されていたと感じる何らかの経験をした人が多い。

11.中学生の頃、家、学校以外で安心して過ごせる居場所がある人は、ホワイトデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)の人以外にプレゼントを渡したりもらったりした経験を持っている人が多い。中でも「中学生不登校経験あり」の人で、ホワイトデーの時、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人にプレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、人から信頼されていたと感じる何らかの経験をした人が多い。

最後に「誕生日」イベントについてまとめる。「誕生日」イベントには下記4つの事実が明らかになった。

12.小学生の頃、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人で相談できる人がいる人は、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人が多い。中でも「小学生不登校経験なし」の人で、

家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、人から信頼されていたと感じる何らかの経験をしている人が多い。

13.中学生の頃、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人で相談できる人がいる人は、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人が多い。中でも「中学生不登校経験あり」の人で、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、信頼されていたと感じる何らかの経験をしている人が多い。

14.小学生の頃、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人で信頼できる人がいる人は、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人が多い。中でも「小学生不登校経験なし」の人で、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、人から信頼されていたと感じる何らかの経験をしている人が多い。

15.中学生の頃、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人で信頼できる人がいる人は、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人が多い。中でも「中学生不登校経験あり」の人で、家族、親戚、学校(先生、友達)以外の人に誕生日プレゼントを渡したりもらったりした経験がある人は、信頼されていたと感じる何らかの経験をしている人が多い。

今回の調査で、「クリスマス会」「バレンタインデー」「ホワイトデー」「誕生日」の4つのイベン

トから15の事実を考えることができた。4つのイベント事全て、「信頼されていた経験」と関係があることが分かった。信頼されていたと感じた何らかの経験が存在していることが考えられる。クリスマス会とバレンタインデーの2つのイベント事からは「自分に自信を持っているか」と関係があることが分かった。自信を持つ何らかの経験をしていることが考えられた。先行研究で、山野則子が「子どもの放課後過ごす人の幅が増えるなど生活を豊かにすることは困窮度に関係せず親子の触れ合いや自己肯定感要素に影響を与えることができる」(山野 2019 :113)と述べていた。分析結果から、日常的に家や学校といった身近な場所以外での他者との関わりを持っている人は何らかのイベントに参加している人が多く、イベントに参加している人は人から信頼されていたと感じる経験(1、2、6、7、10、11、12、13、14、15)や、自分に自信を持っていた人(3、4、8)が多かったことから、イベントに参加している人は生活が豊かな人が多く、自己肯定感要素に影響を与えていた可能性があることが考えられた。また、「バレンタインデー」「ホワイトデー」の2つのイベントの結果にはジェンダー差がある可能性が考えられた。

アンケート調査を実施した通信制全日制高校の学生の特徴が出ている可能性があり、この結果を一般化するにあたり、他の高校での調査も必要であると考えられる。また、新型コロナウイルスの影響により、生活様式が変化しているため、現在の子どもたちの放課後とは異なっている可能性がある。今回行わなかった仮説1、仮説2での統計的に有意な値が出なかった変数についてや、信頼されていたと感じたり、自分に自信を持つきっかけとなったりした何らかの経験について、仮説1の結果と仮説2の結果間の関係性については、次回の調査で明らかにしていきたい。

参考文献リスト

- (1)大澤真平、2008、「『子どもの貧困』にみる育ちとライフチャンス:子どもの経験に注目して-(IV-7 部会教育費,研究発表 IV)」『日本教育社会学会大会発表要旨収録.(60)』:341-342、(2021年11月28日取得、https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10620674_po_ART0008931010.pdf?contentNo=1&alternativeNo=)。
- (2)大澤真平、2019、「貧困と子どもの経験——子どもの視点から考える」『遊び・育ち・経験 —子どもの世界を守る』(小西祐馬・川田学)株式会社明石書店、47-70。
- (3)埼玉県川越市、2019、「川越市子どもの生活に関する実態調査報告書」、川越市ホームページ、(2022年10月31日取得、<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kosodatekyoiku/oshirase/kodomoseikatsutyousa.files/kodomohoukokusho.pdf>)。
- (4)埼玉県川越市、2019、「川越市子どもの生活に関する実態調査報告書(概要版)」、川越市ホームページ、(2022年10月31日取得、<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kosodatekyoiku/oshirase/kodomoseikatsutyousa.files/gaiyou.pdf>)。
- (5)山下智也、2019、「放課後の地域の居場所から考える」『遊び・育ち・経験 —子どもの世界を守る』(小西祐馬・川田学)株式会社明石書店、221-248。
- (6)山野則子、2019、『子どもの貧困調査 子どもの生活に関する実態調査から見てきたもの』株式会社明石書店。
- (7)吉本隆明、2020、『《新装版》ひきこもれ ひとりの時間をもつということ』SBクリエイティブ株式会社。